

クルドの農業と農民 <その1>

クルドの農業(イントロダクション)

クルドの概要については AAI ニュース 70 号でも触れたが、イラクの北部に位置するクルド地域の 3 県 (Erbil, Suleimania, Dohuk) はイラク国内で広範にわたる自治が認められており、地域独自の開発を進めている。過去においてクルド民族は、周辺国を含めて過酷な時代を経験してきた。しかし、前政権の崩壊後、現在では完全とは言えないものの、安定した治安と政治状況、また諸外国からの投資もあり急激な開発が進められてきている。このような中、クルド自治政府も当該地域の主要産業である農業開発のために資金面や技術面で積極的に農民支援に力を入れている。

クルド地域の地形は、エルビル県南部やスレイマニア県南西部において標高 300m 以下のゆるやかな平原となっており。また、ドホーク県南部、エルビル県中部からスレイマニア県中部にかけては概ね緩やかな丘陵地を形成している。さらに、イラン、トルコ国境にかけては 3,000m 級の山脈が連なり、その南斜面に沿って急峻な傾斜地となっている。一方、クルド地域の降水量は、南部の 400mm 程度の乾燥気候から、北部山間部では 1,000mm を超える降雨の場所もあり、非常に変化に富んでいる。このような、イラク国内では比較的豊富な降水量と変化に富む地形から、土壌も地域によって異なるが、イラク南部に比べると肥沃な地帯が広がっていると言えるだろう。クルド地域の南部の平坦地から緩やかな丘陵地では、天水による小麦を中心とした穀物栽培が行われてきている。また、特に水環境の良い場所では、地下水を利用した

灌漑による野菜栽培が、そして傾斜地を中心に果樹栽培が行われてきている。このように変化に富んだ気象、地形条件を生かしながら農業が行われている。

また、放牧による畜産も盛んで、農民の大きな現金収入源になっていると聞いた。



イラク・クルド自治 3 県

このような農業環境の中で開発ポテンシャルの高いクルドの農業は、今後のイラク復興のための重要な産業のひとつであるとともに、イラク中央政府とクルド自治政府の友好な関係を継続する上でも重要な絆になり得るのではなからうか。クルド地域は、過去においてイラクの大穀倉地帯となっていたが、長年の戦乱とそれに伴う農民やテクノクラートの流出から、農業生産が過去の生産レベルに達していない。しかし、クルド自治政府は、農業の復興を国の大きな柱にしながら、各種の支援を農業分野に投入している。

このシリーズでは、クルド地域の農業を、穀物栽培、野菜栽培、そして果樹栽培に分け、これらの栽培技術の現状や問題点などを、現地で聞き取った農民や現地技術者の声を中心に紹介していこうと考えている。また、このような栽培を紹介しながら、クルドの農民の気質や生活環境にも触れてみたい。



エルビル周辺の農地 (飛行機から)



クルド地域の丘陵地の農地